

第4学年 国語科学習指導案

日 時 令和3年11月10日(水) 5校時

場 所 4年3組教室

児 童 男17名 女16名 計33名

指導者 金野 建

1 単元名 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

教材名 「世界にほこる和紙」

「じょうほう 百科事典での調べ方」

「伝統工芸のよさを伝えよう」(光村図書 4年)

2 内容のまとめ

第4学年

〔知識及び技能〕(2) 情報の扱い方 イ

(3) 我が国の言語文化 オ

〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」(1) ウ (2) ア

「C読むこと」(1) ウ (2) ウ

3 単元の目標

(1) 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ

(2) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ウ

(3) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ

(4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く 読書をし、国語を大切に して、思いや考えを 伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

4 単元について

(1) 児童について

ア これまで、説明的な文章を読む学習において、「思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える」では、文章構成や段落どうしの関係を確かめ、筆者の考えを捉える学習を行ってきた。

イ 「要約するとき」の学習では、既習の説明的文章を用いて実際に要約を行う学習を行ってきた。また、要約した文章を友達と読み合うという学習経験がある。

ウ 児童は、「初め」、「中」、「終わり」等の構成や、筆者の考えがどこに書かれているかを捉える力や、説明に「対比」を用いるよさを理解する力等が身に付いてきている。

(2) 教材について

ア 本教材は、「世界にほこる和紙」を読んで、筆者の説明のしかたを捉えたり要約したりし、百科事典などを活用して、伝統工芸について調べたことを書く活動を行うという、複合単元である。

イ 「世界にほこる和紙」は、構成が捉えやすく、考えと理由の関係を捉えたり、中心となる語や文を見

つけたりする学習に適している。筆者が読み手に伝えたいこと、「よさ」や「みりよく」を伝えるためにどのような事例を取り上げているかなど、筆者の意図に対して問いをもちながら読みすすめることができる教材である。

(3) 指導について

ア 本単元における言語活動として、「東北地方の伝統工芸リーフレット作り」という伝統工芸に関して本などで調べたことをまとめてリーフレットを作る学習を位置づけている。本校の3年生が都道府県学習をする際にその都道府県に興味をもてるようにリーフレットを作成するという目的意識をもち学習に臨んでいく。その言語活動には、本単元において中心となる語や文を捉えて要約するという、「世界にほこる和紙」の学習で身に付けた力をいかしていく。このような言語活動が設定されていることによって、説明のしかたを捉えながら読んだり、文章を要約したり、百科事典や、取り上げる題材に関連する書籍を読んだりする必然性が生まれている。さらに単元の最初に、言語活動のモデルの提示を行うことにより、読むことへの意欲を高めていく。

イ 単元のゴールがリーフレット作りと設定されていることによって、説明文をどのように読み、そこで得た力をどうかするか、百科事典や本などから情報をどのように得て、整理し、自分の書くものに用いていくかなど、児童が目的をもって学習に取り組み、主体的・対話的な学習を行うことが期待できる。

ここで行う要約の学習は、1学期の「要約するとき」で既習だが、本単元では力の定着を図りたい。また、ここで捉えた説明のしかたの工夫を、この後の「書くこと」の学習でいかすことによって、その効果に対する理解をより深めることができると思う。

そして、既習事項が容易に振り返られるように、教室掲示を工夫していく。さらに、学習に用いる資料等は、「4年生の説明文ファイル」として手元に置き、1学期の説明的文章で使用したワークシートや今回の学習資料を、既習事項の振り返りにその都度活用していく。また、学習のゴールであるモデル文の提示を含め、児童が学習の見通しをもって毎時間の学習に取り組めるように、単元の終わりまでのワークシートが最初から児童の手元にある状態で学習を進めていく。また、伝統工芸について書かれた本を並行して読ませていく過程では、伝統工芸のよさに注目して読むようにし、授業の中でも取り上げていくようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 百科事典の使い方を理解し、使っている。(2) イ	① 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。B(1) ウ	① 伝統工芸について関心を持ち、単元全体の学習の見通しをもって、進んで学習に取り組もうとしている。
② 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3) オ	② 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。C(1) ウ	② 進んで、文章を読み、中心となる文や語を見つけて要約し、学習課題に沿って伝え合おうとしている。

6 単元の指導計画（全17時間 本時 5／17）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第1次	1	○伝統工芸について関心をもつ。 ○単元の学習のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。	・教科書の例を用いたり、社会科の学習と関連させたりし、伝統工芸に関する関心がもてるようにする。 ・「調べた伝統工芸品のよさを説明する文章を使ってリーフレットを作る」というゴールを示し、リーフレットに書く内容や文章にあわせる資料等、単元を通して身に付けたい力の見通しがもてるようにする。	【主体的①】 [観察・発言] ・伝統工芸について関心をもち、単元全体の学習の見通しをもって、進んで学習に取り組もうとしている。
	2	○初発の感想をもとに、学習計画を立てる。 ○伝統工芸に関する本や資料について知る。 ○新出漢字や難語句の学習を行う。	・言語活動のゴールの例を用いて学習の見通しをもたせるとともに、前時の感想から学習計画を立てて意欲付けを図る。 ・新出漢字は、時間外でも習熟を図り、家庭での音読を並行して取り組めるようにする。	
第2次	3	○「世界にほこる和紙」を読み、おおまかな内容を捉える。 ○段落を確かめ、文章全体の構成を捉える。 ○「中」に述べられている、筆者の考えの理由となる二つのことを捉える。 ○「中」で、どのような例が何を説明するために述べられているか捉える。	・題名に着目し、和紙や文章への興味関心を高める。 ・「初め」「中」「終わり」の構成を押さえられるようにする。 ・挙げられている事例が、説明している内容を考えられるようにし、「中」を二つに分けられるようにする。 ・筆者が読み手に強く伝えたいことは何かを考え、それを基に中心となる語や文を考えられるようにする。	【思考・判断・表現①】 [記述] ・文章を読んで内容と構成を捉えたうえで、まとまりごとに中心となる語や文を見つけて要約している。
	4	○まとまりごとに中心となる語や文を考え「はじめ（1・2段落）」を要約する。	・段落の中心となる文の見つけ方として、「くりかえし出てくる言葉」「題名とつながる言葉」「文の主語」などを意識させることで中心となる文を見つめることができるようにする。	
	5 本時 6	○「中1（3～6段落）」を要約する。 ○「中2（7～9段落）」を要約する。	・視覚的に文の主語を意識でき	

	7	○「終わり（10段落）」を要約し、要約した文章をつなげる。	るように、文末を体言止めにする。	【主体的②】 [観察・発言] ・進んで、文章を読み、中心となる文や語を見つけて要約し、学習課題に沿って伝え合おうとしている。 【知識・技能①】 [観察] ・百科事典の使い方を理解し、使っている。
	8	○「世界にほこる和紙」を200字で要約する。	・文字数の制限に合うように要約文を書くようにする。	
	9	○伝統工芸に関する本について、よさが書かれていると思うところを中心に要約する。	・3年生に自分のリーフレットを紹介することを意識して、短くまとめられるようにする。	
	10	○百科事典の使い方を知る。	・第1次から読み進めていた本について、自分が関心をもった伝統工芸のことを要約できるようにする。	
第3次	11	○伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作る学習の見通しをもつ。 ○取り上げるものを決めて、本などで調べ、情報を整理する。	・「伝統工芸のよさを伝えよう」を読み、学習の見通しがもてるようにする。	【知識・技能②】 [観察・ワークシート] ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 【思考・判断・表現②】 [記述] ・調べたことを基に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。
	12	○組み立てを考え、下書きをする。	・P56, 57「リーフレットの例」を参考に、必要な情報や文章構成について考えられるようにする。	
	13	○レイアウトを工夫し、リーフレットを作る。	・文字量の目安を示し、要約の見通しをもつことができるようにする。	
	14			
	15			
	16	○友達と読み合い、感想を伝え合う。	・感想を伝え合う観点をあらかじめ示し、目的をもって交流することができるようにする。	
	17	○単元の学習を振り返る。		

7 本時の指導

(1) 目標…「中」のまとまり（3～6段落）で中心となる語や文を捉え、文章を要約することができる。

視点1…児童の既有的知識や様々な経験を結び付けて自分の考えをもたせ、表現させる。

手立て…②前時までの学習の振り返りをいかして、本時の学習課題の解決にのぞむことができる。

視点2…自分の考えを深めて表現させる。

手立て…⑥友達との学び合い

- ・友達の解釈の根拠や理由を自分と比較しながら自分の考えを再構築していく。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点 ◇評価
つかむ 5分	1 並行読書の資料から出されたクイズに答える。 2 前時の学習を想起する。 3 課題をつかむ。 ⑨筆者は和紙のよさを、どんな方法で伝えているだろうか。	- 家庭で読んできた伝統工芸品の資料からクイズを出し、解答をもとに伝統工芸品マップに記録していく。 1～2段落の要約で学んだ「くりかえし出てくる言葉」「題名とつながる言葉」「文の主語」を振り返り、本時の課題につなげる。 - リーフレット作成の際に、伝統工芸のよさを要約して書く必要性にふれる。
深める 35分	4 課題を解決する。 (1) 各形式段落の中心となる文をまとめる。 - 中心となる大切な文を見つける。 - 抜き出した一文を短くまとめる。 (視点1で期待する姿) 段落相互の関係に着目しながら、前時に学習した中心となる文の見つけ方をいかし、抜き出した一文に中心となる語を加えて短くまとめることができる。 【一文をまとめた例】 第3段落 洋紙とくらべて、やぶれにくく、長もちするという2つのとくちょうをもつ和紙 第4段落 洋紙より長いせいで作られているからやぶれにくい和紙 第5段落 洋紙を作るときよりおだやかなかんきょうで作られているから長もちする和紙 第6段落 国内外のさまざまなところで実感できる和紙のとくちょう (2) 文字数の制限を意識して、3～6段落の要約文をつくる。 - 要約文を書く見通しをもつ。 【要約文の例】 87字 和紙は洋紙と比べてやぶれにくく、長もちするという二つのとくちょうがあり、それはせんの長さや作り方のちがいである。 和紙のとくちょうは、国内外のさまざまなところで実感できる。	視点1 - 段落の中心となる文の見つけ方として、「くりかえし出てくる言葉」「題名とつながる言葉」「文の主語」などを意識させることで中心となる文を見つけることができるようにする。 - 視覚的に文の主語を意識できるように、文末を体言止めにする。 ◇文章を読んで内容と構成を捉えている。(記述・発言) - 要約されていない例を提示する。要約の方法を確認する手立てとして、前時の要約文とリーフレットの書き方を振り返る。 「文の主語」と「言葉の重複」を意識させることで、「短い文」にまとめられるようにする。 ◇中心となる語や文を捉え、文章を要約している。(記述・発言)

	(3) 書き上げた要約文を友達と交流する。 (視点2で期待する姿) 他者がまとめた要約文と自分のまとめた要約文を比較することで、要約のしかたや筆者の考えの中心について確かめることができる。	視点2 - 文章全体における「中1(3～6段落)」の役割である「和紙のよさ(特徴)」が明確に捉えられるようにする。 - 要約する目的を再度意識するようにし、1・2段落の要約文と比較する。 - 文字数の制限に合うように要約文を書くようにする。 - 要約について学ばせるため、3人組で交流し、色分けした付箋を用いて、書いた要約文についてよく書けていること(ピンク)、修正できること(水色)を伝え合うようにする。
まとめる 5分	5 まとめる。 ㊦ 筆者は和紙のよさを洋紙とくらべた「とくちよう」をあげて説明している。 6 学習を振り返る。 ○要約するよさについて考えてみよう。 (期待する児童のふりかえり) - 要約すると、伝えたいことが明確になる。 - 次の段落も簡単に要約できそうだ。 - リーフレットに伝統工芸のよさを書く時にも要約して書きたい。	リーフレットを書く際に、自分の選んだ伝統工芸のよさを簡潔にまとめることにいかせるようにする。

(3) 評価規準

評価の観点	おおむね満足	支援を要する児童への手立て
・「中」のまとまり(3～6段落)で中心となる語や文を捉え、文章を要約している。	・根拠をもって各段落の中心文を抜き出すことができ、その中心文を体言止めで短くまとめ、要約する時に用いている。	- 各段落の主語に注目させる。 - 要約文にする時に、短くまとめた一文を使うことを助言する。

(4) 板書計画

世界にほこる和紙

増田勝彦

筆者は和紙のよさをどんな方法で伝えているだろうか。

中心となる語や文

- ・ 段落の始めや

終わり

- ・ 接続語に続く

内容

- ・ 題名とつなが

る

- ・ 繰り返し出てくる

- ・文の主語述語

要約の方法

- ・ 中心文を見つ
ける

- ・ 具体例は入れ

ない

- ・ 同じ意味の言

葉は短い方で残

中心となる語や文

3 段落

洋紙とくらべて、やぶれにくく、長もちするとかちようをもつ

和紙

4 段落

長いせんいで作られて
いるからやぶれにくい和紙

5 段落

おだやかなんき
 ようで作られている
 から長もちする和紙

6 段落

国内外のさまざまなところで実感できる和紙のとくちよう

まとめ

筆者は和紙のよさを洋紙とくらべた「とくちょう」をあげて説明している。

[illegible]